

サンプルファイルの使い方

このドキュメントでは、アドビのHTML5特設サイト「Dreamweaver CS6とHTML5で今すぐ始めようスマートフォン&タブレット対応」(<http://adobe-html5.jp/>)からダウンロードしたレスポンシブなHTML5バナーのサンプルファイルを、Adobe Edge Animateで使用する為の設定手順を説明します。

設定に必要な作業は、大きく以下の3つです。

1. Adobe Edge Animateのインストール
2. Adobe Edge Animate内でサンプルの内容確認

事前に用意するものは以下の2点です。

1. Adobe Edge Animate
2. HTML5特設サイトから提供されるレスポンシブなHTML5バナーのサンプルファイル

Edge AnimateはCreative Cloud (<https://creative.adobe.com/join/starter>)から、サンプルファイルはHTML5特設サイト (<http://adobe-html5.jp/>)から入手できます。

設定手順

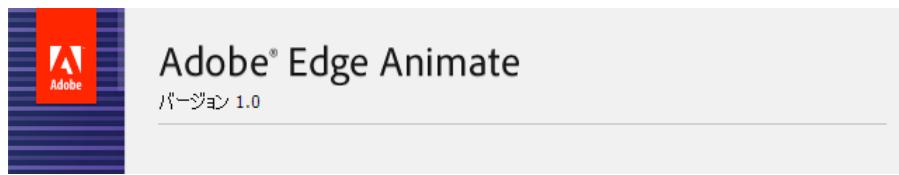
1. Adobe Edge Animateのインストール

まず、Adobe Edge Animateをインストールします。製品のインストーラーはCreative Cloud (<https://creative.adobe.com/join/starter>)からダウンロードできます。サンプル公開時点では、Edge Animateは期間限定で無料で提供されています。無料の初回提供期間が終了すると、今後リリースされるEdge Animateは、Creative Cloudメンバーシップの一部として、永久ライセンスおよび月間サブスクリプションの形態で提供される見込みです。

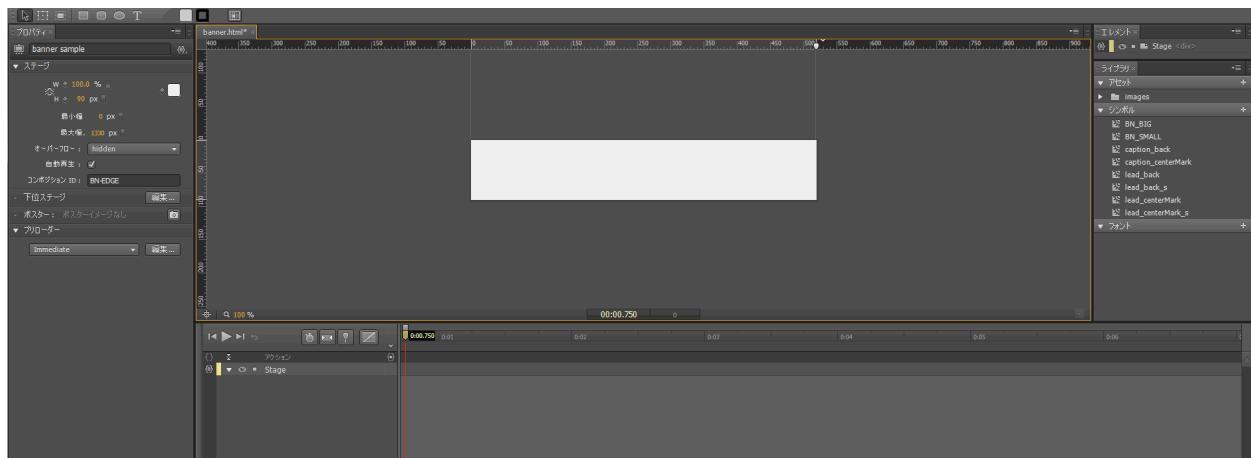
インストールが完了したら、動作確認のためEdge Animateを起動します。



メニューから「Edge Animateについて」を開きEdge Animateが正しくインストールされていることを確認してください。

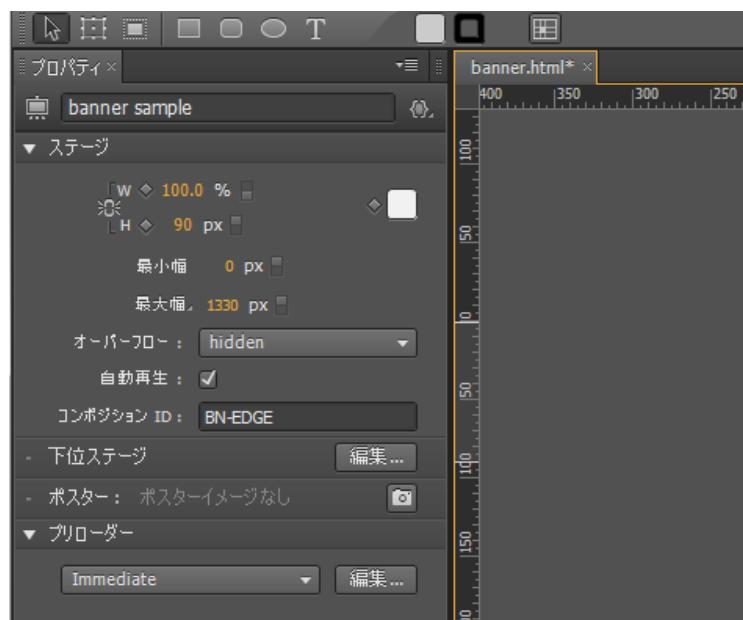


Edge Animateを起動した状態で、「ファイルを開く」メニューから、ダウンロードしたサンプルに含まれるbanner.anまたはbanner.htmlを選択すると、バナー用のステージが中央に表示された状態でサンプルを編集できる状態になります。これでツール側の準備は完了です。

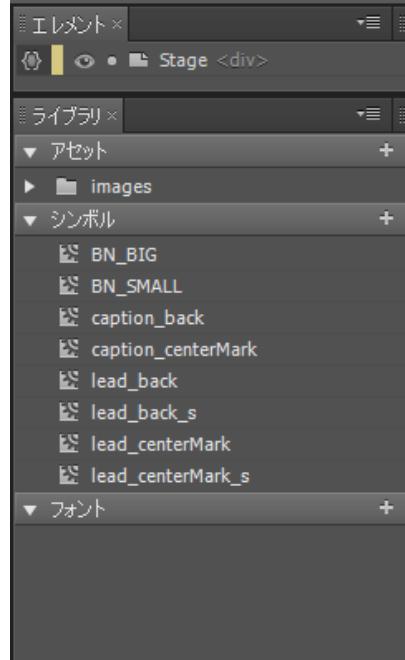


2. Adobe Edge Animate内でサンプルの内容確認

ステージの左側には描画ツールの下にプロパティパネルが配置されています。ここには編集対象の情報が表示されます。最初にサンプルファイルを開いた状態では、ステージに関する情報が表示されています。

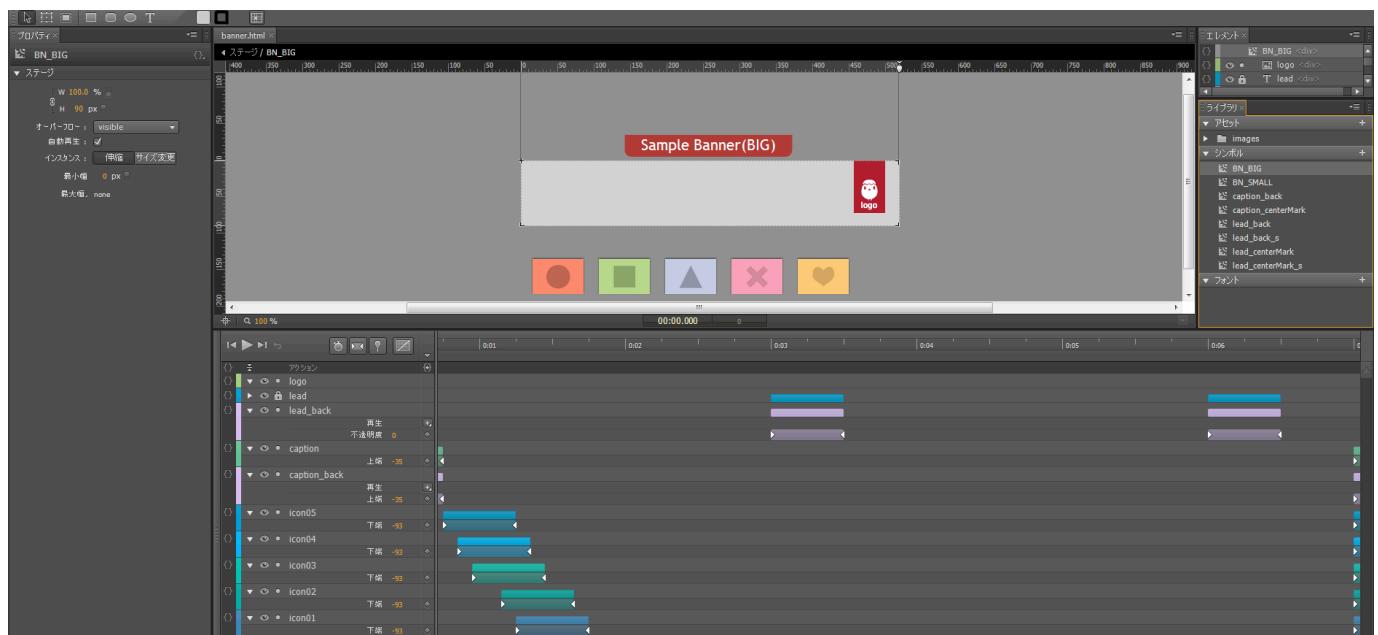


ステージの左側には、編集可能な要素がリストされるエレメントパネルの下に、サンプルに含まれているアセットやシンボルを表示するライブラリパネルがあります。アセットの欄には画像などが、シンボルの欄にはEdge Animateで制作したシンボルが表示されます。シンボルは、独立したタイムラインとインタラクティブ機能を備え、シンボルを階層化してアニメーションを制作できます。シンボルは再利用可能です。

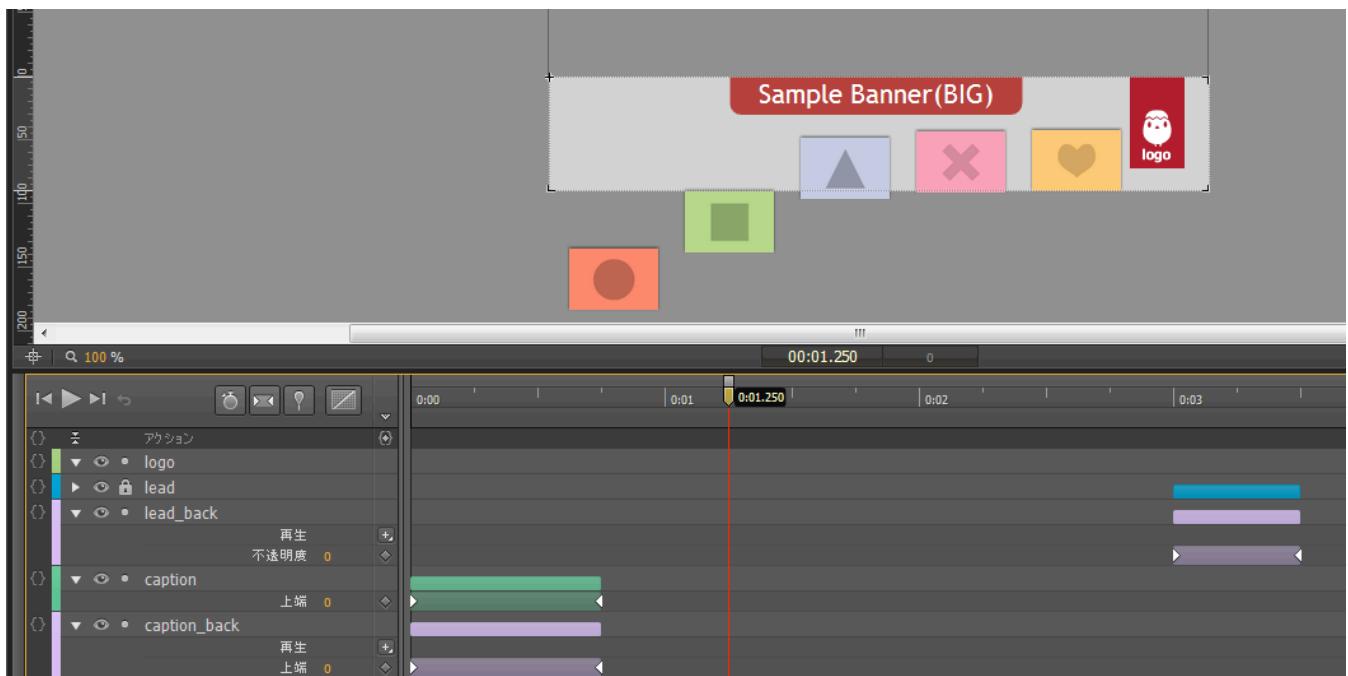


早速、シンボルの先頭にあるBN_BIGを開いてみましょう。これはサイズの大きい方のバナーのアニメーションが設定されているシンボルです。シンボルを開くには、名前の左側にあるアイコンをクリックします。

すると、下の用が画面が表示されます。ステージ上にはバナーで試用する画像やテキストが表示されています。その下にあるのは編集中のシンボルのタイムラインです。

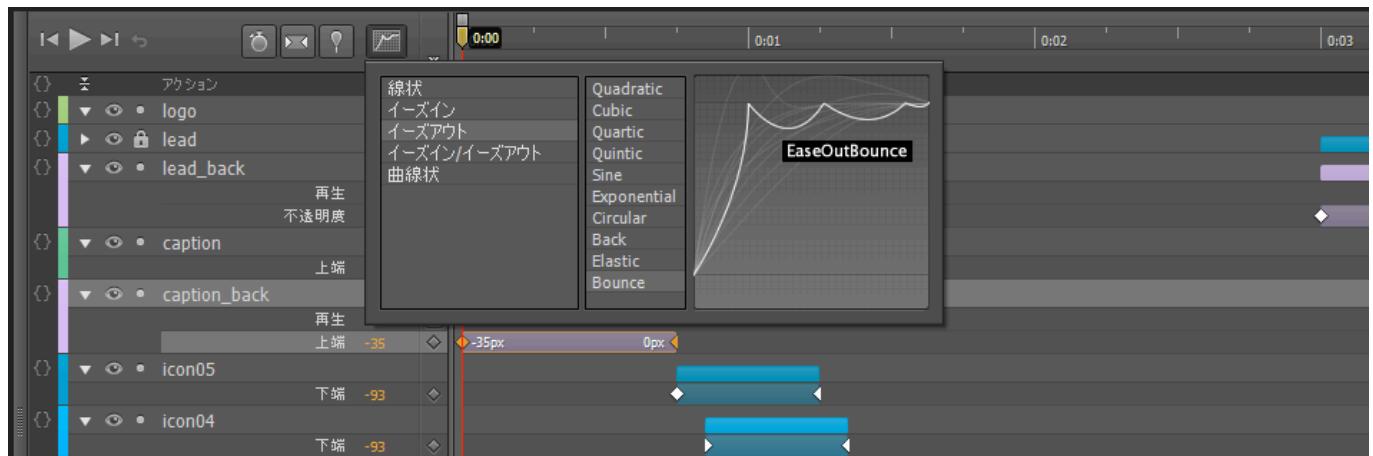


タイムラインには、アニメーション定義が要素の属性ごとに表示されます。タイムラインパネルの最上部にはアニメーション開始からの経過時間が表示されています。その数字の並びの適当な位置をクリックすると、再生ヘッドが移動して、その時点のステージの様子が表示されます。



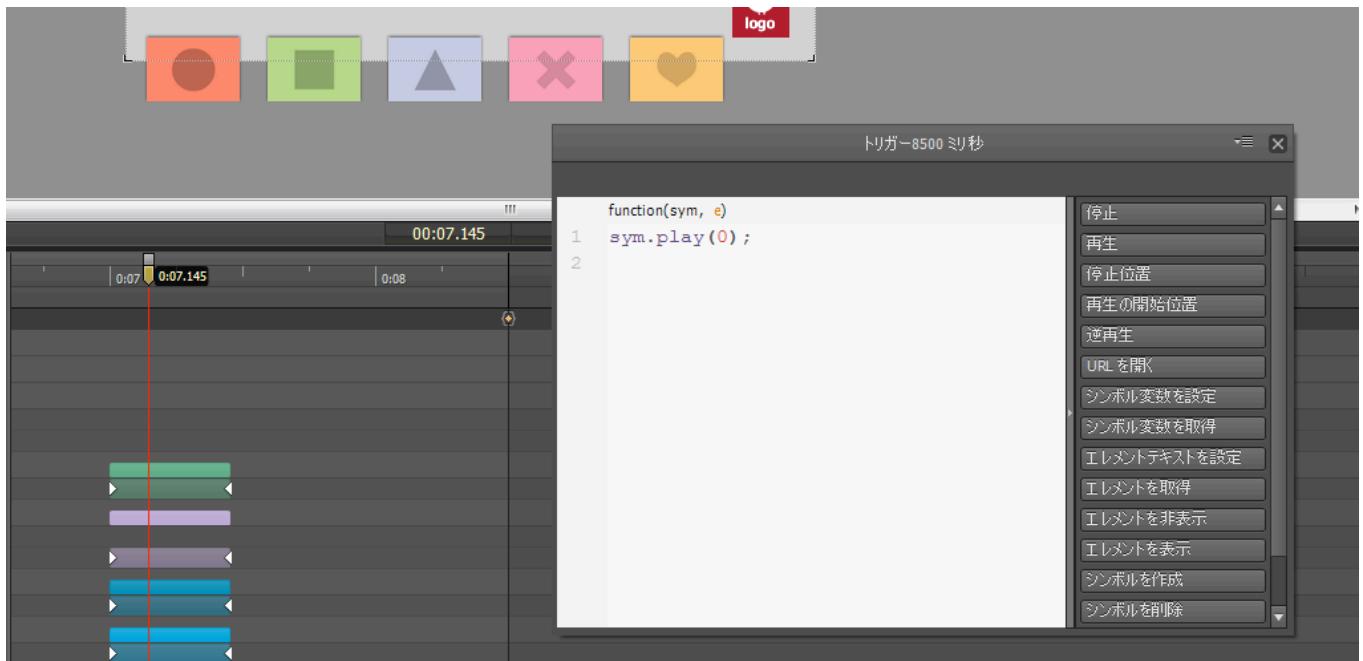
Edge Animateのタイムラインパネルは、作成済みのアニメーションが要素ごとに色分けされて表示されます。アニメーションは属性ごとに表示させることができます。それぞれのアニメーションにはイージングを設定することができます。

属性に設定されているアニメーションを一つ選択して（色の付いたバーをクリックします）、タイムラインパネル右側にあるグラフのアイコンをクリックすると、イージング設定用のパネルが表示されます。既にイージングが設定されていると、アニメーションを選択した時点でアイコンの形が変わります。



タイムラインにはアクションも設定できます。タイムラインパネルのアクションと書かれた行にアイコンがあれば、それはそのタイミングで実行されるスクリプトがあることを意味します。

編集中のサンプルでは、タイムラインの一番最後までスクロールするとアクションのアイコンが見つかります。アイコンをクリックしてみるとアクションを設定するためのパネルが表示されます。



サンプルでは、「タイムラインの先頭に戻って再生を再会する」というアクションが定義されています。基本的なアクションは、パネル内に用意されているリストから選択して設定できるため、あまりスクリプトに詳しくなくても利用することができます。

設定の確認は以上です、Edge Animateを使ってレスポンシブなバナーを編集すれば、マルチスクリーンに対応するバナーを容易に作成することができます。